

札幌市英語教育改善プラン

実施内容

(1) 英語教育の状況を踏まえた目標

①【CAN-DO リスト形式による学習到達目標の設定、公表の状況、到達度の把握】

技能別学習到達目標（CAN-DO 形式）の整備状況（設定・公表及び達成状況の把握等の状況）

			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
小学校	設定	目標値	—	5.0%	30.0%	50.0%
		達成値	—	—		
小学校	公表	目標値	—	5.0%	30.0%	50.0%
		達成値	—	—		
小学校	把握	目標値	—	10.0%	30.0%	50.0%
		達成値	—	—		
中学校	設定	目標値	—	65.0%	80.0%	100.0%
		達成値	58.2%	—		
中学校	公表	目標値	—	20.0%	40.0%	50.0%
		達成値	11.2%	—		
中学校	把握	目標値	—	30.0%	50.0%	60.0%
		達成値	18.4%	—		
高等学校	設定	目標値	—	100%	100%	100%
		達成値	100%	—		
高等学校	公表	目標値	—	40.0%	50.0%	60.0%
		達成値	28.6%	—		
高等学校	把握	目標値	—	75.0%	80.0%	85.0%
		達成値	71.4%	—		

本市における現状と課題

- 令和元年度、高等学校においては既に全校で設定しており、今後は公表及び把握が課題となる。一方、中学校においては、市全体において設定状況の改善を図るための仕組みづくりが必要であることから、令和2年度「札幌市英語教育改善プラン会議（以下「改善プラン会議」という。）」の研究部会において、CAN-DO リスト形式による学習到達目標の各校種のモデルとなる、「札幌CAN-DO スタンドアード」を作成し、各学校の参考となるよう様式及び活用ハンドブック等を周知・配付したところである。
- 令和3年度は、市内全小・中学校での CAN-DO リストの設定、公表、把握と併せ、作成段階からの校種間連携（札幌市が定めるパートナー校間）を図り、校種間の学びの接続を目指す。

②【生徒が授業において英語による言語活動を行う時間の割合】

半分以上の時間、英語による言語活動を行っている教員の割合

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
中学校	目標値	—	65.0%	70.0%	75.0%
	達成値	57.9%	—		
高等学校	目標値	—	75.0%	80.0%	85.0%
	達成値	72.7%	—		

本市における現状と課題

- ・中学校、高等学校ともに学年が上がるにつれて、学習内容の定着を図る演習問題等に丁寧な指導を行うことによって、生徒の英語による言語活動の時間が少なくなる傾向がある。中学校においては、学習指導要領の改訂に伴い、各学校が CAN-DO リスト形式による学習到達目標の設定を通して育成すべき資質・能力を明確にするとともに、言語活動やパフォーマンステスト等の評価の在り方について校内で協議するよう啓発していく必要がある。
- ・本市の外国語科においては、実際のコミュニケーションの中で自分の考えや気持ちを伝え合い、協働的に探究していく、課題探究的な学習を推進していることから、中学校において、令和2年度2月、「札幌市教育課程編成の手引（外国語）」に生徒の英語による言語活動を中心とした課題探究的な学習の事例を掲載し、全中学校外国語科教員に配付した。
- ・令和2年度の小学校専科指導教員の拡充による効果や英検 IBA の分析結果等について、各校と共有し、授業における児童生徒の英語による言語活動時間の占める割合の向上を図る。

③【パフォーマンステストの実施状況】

「話すこと」及び「書くこと」における外国語（英語）表現の能力を評価するためのスピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの実施

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
中 学 校	スピーキング テスト	目標値（回）	—	3	3		
		達成値（回）	3				
	ライティング テスト	目標値（回）	—	2	3	3	
		達成値（回）	1.5				
高 等 学 校	スピー キング テスト	目標値（回）	—	2	3	3	
		達成値 （回）	EC I	1.4			
	EC II		0.9				
	EC III		0.4				
	EE I		1.7				
	EE II		2				
	ライテ ィング テスト	目標値（回）	—	2	3	3	
		達成値 （回）	EC I	1.1			
			EC II	1			
			EC III	1.1			
EE I			1.1				
EE II	1.7						

（ECは「コミュニケーション英語」、EEは「英語表現」の科目名を表す。）

本市における現状と課題

- ・生徒の英語による言語活動同様、中学校・高等学校ともに学年が上がるにつれて、パフォーマンステストの実施回数が減少する傾向がある。学習到達目標の達成状況を適切に把握するために、英語指導を担当する教員の共通理解のもと、パフォーマンステストの実施時期や回数、方法等について年間指導計画に位置付け、実施していく必要がある。
- ・特に中学校においては、新学習指導要領の全面実施に伴い、先に配付した「札幌 CAN-DO スタンダード」のパフォーマンステスト事例集を参考にして、各学校が自校の年間指導計画や CAN-DO リスト形式による学習到達目標においてパフォーマンステストの実施時期や評価の具体を位置付け、計画的に実施していくことが期待される。

④【中学校・高等学校における英語担当教員の授業における英語使用状況】

授業において、発話の半分以上を英語で行っている教員の割合

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
中学校	目標値		55.0%	60.0%	65.0%
	達成値	51.4%			
高等学校	目標値		80.0%	85.0%	90.0%
	達成値	79.9%			

本市における現状と課題

- ・「発話の半分以上を英語で行っている教員」の割合は、中学校において半数程度であり、なかなか改善されない現状がある。
- ・児童生徒がコミュニケーションの目的、場面、状況等に応じて、学習した語句や表現を活用して自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実を図るため、言語活動の指示に加えて、児童生徒の発話に教師が英語で応答することや、教師とALTが対話やプレゼンテーション等のモデルを児童生徒に示すなど、教師が授業で英語を使用する具体的な場面を想定した参加型の研修を実施するなどして、指導力の向上を図ることが課題である。

⑤【求められる英語力を有する英語担当教師の割合】

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
中学校	目標値	—	44.0%	48.0%	52.0%
	達成値	40.5%	—		
高等学校	目標値	—	80.0%	82.5%	85.0%
	達成値	78.8%	—		

本市における現状と課題

- ・求められる英語力（CEFR B2）を有する教師の割合は、令和元年度の調査において、本市中学校では40.5%、高等学校では78.8%であった。児童生徒の発達段階に応じた言語活動を通じた指導を行うには、教師の指導力に加え英語力が必要であるが、④「中学校・高等学校における英語担当教員の授業における英語使用状況」において課題があることから、英語力とともに「授業等における英語活用力」の向上に重点を置いた研修等が必要である。

⑥【求められる英語力を有する生徒の割合】

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
中学校	目標値	—	48.0%	54.0%	60.0%
	達成値	41.9%	参考:60.7%(英検 IBA)		
高等学校	目標値	—	63.0%	65.0%	68.0%
	達成値	60.4%	—		

本市における現状と課題

- ・求められる英語力（中学校 CEFR A1、高等学校 A2～B1）を有する生徒の割合は、令和元年度の調査において、本市中学校で割合は41.9%、高等学校では、60.4%である。
- ・中学校において、令和元年度4月に実施した全国学力・学習状況調査では、「聞くこと」「読む

こと」「書くこと」について、全国平均よりもやや上回っている。

- ・本市では、令和元年度から令和3年度までの3年間、市立全中学校全学年を対象とした英検 IBA (RL) を実施し、「読むこと」「聞くこと」の2技能を測定する。令和2年度の結果は、前年度より、全学年において、スコアの上昇が見られた。特に中学校第3学年において、英検3級以上の英語力を有する生徒の割合は、60.7% (R1: 44.7%) と大きく上昇したことから、本市が令和4年度に目標値として目指している数値を達成したことになる。技能別では1学年のリスニングスコアにおいて、前年度比より大きい伸びが見られ、小学校での外国語活動での学びの蓄積による効果と分析される。一方、リーディングスコアにおいては、語彙力と長文を読み取る力に課題がある。教育委員会は本市の傾向と課題について研修等で情報提供し、各学校は、自校の測定結果から読み取れる「読むこと」「聞くこと」の課題を指導工夫改善に活かしていく。
- ・高等学校においては、外部試験の結果等から生徒一人一人の課題を整理し、生徒の言語活動の質的量的な高まりを求める有効な手立てなどを共有し、生徒に応じた指導を展開すること、スピーチやプレゼンテーションなどの「話す」取組や、聞いたり読んだりしたことを自分の言葉で「書く」取組を増やすことを通して、生徒の英語力の向上を図る。

⑦【小学校専科 新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合 (%) (人数)】

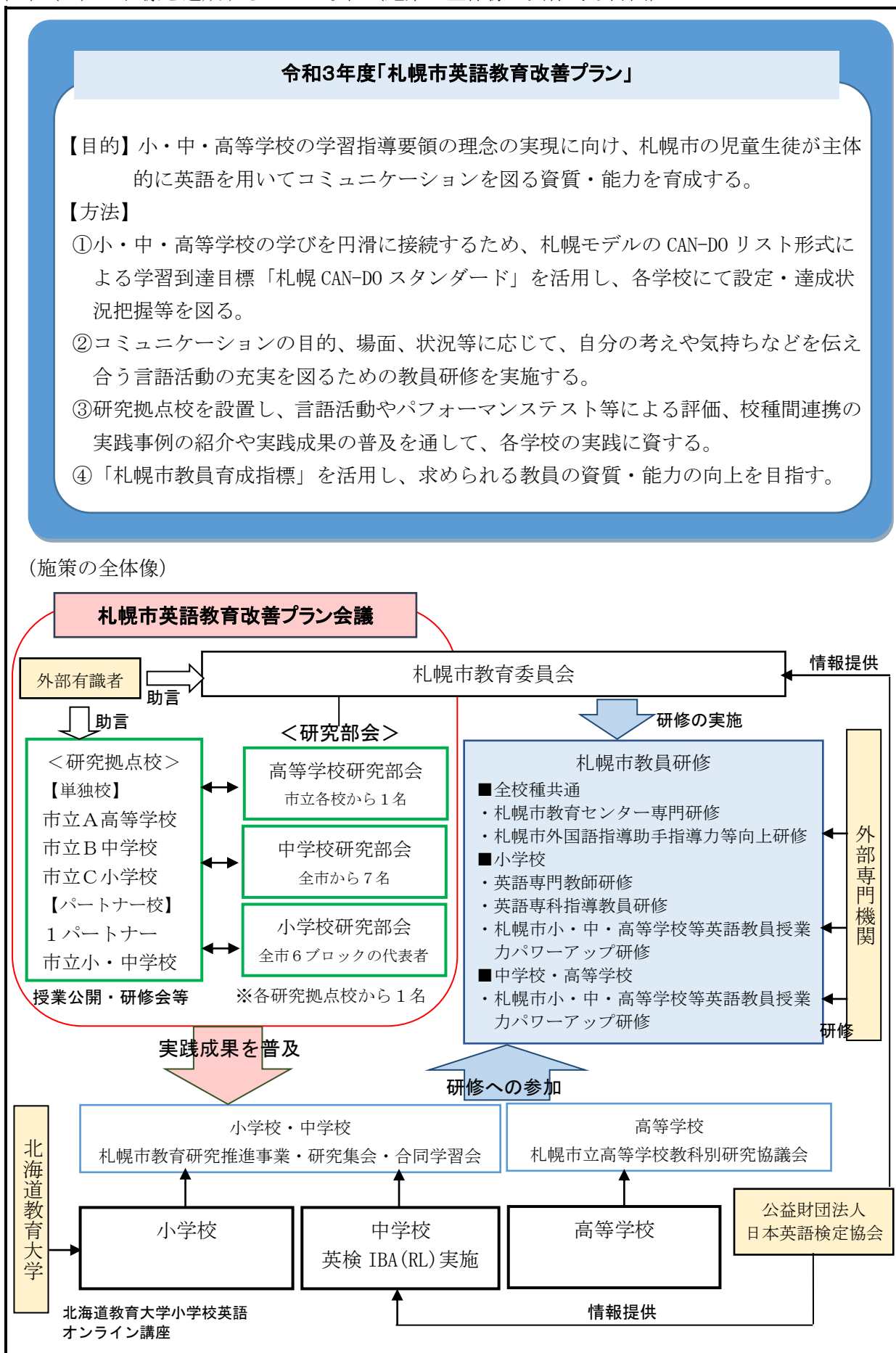
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
新規採用者に占める一定の 英語力を有する者の割合 (%)	目標値		21.0	28.3	35.5	42.8	50.0
	達成値	14.9					
人数 (人)	目標値		34	30	46	47	55
	達成値	20					

※令和3年度以降の目標人数は、本市の採用計画に基づき算出している。

本市における現状と課題

- 採用段階で一定の英語力を有する人材を確保するため、令和2年度実施の教員採用選考検査から、小学校教諭の区分で受検し次の資格等を有するものについて、申請により第1次検査の総合点を加点する制度を新設した。
 - ・中学校又は高等学校英語の教育職員免許状所有者
 - ・実用英語技能検定準1級以上の合格者
 - ・TOEFL PBT550点 (iBT80点) 以上取得者
 - ・TOEIC 730点以上取得者
 - ・在外教育施設等や海外の民間企業等で2年以上の英語を使用した勤務経験のある者
 - ・海外の大学で2年以上の英語を使用した留学経験のある者
 - ・青年海外協力隊の隊員として、2年以上の派遣実績を有する者
- 採用段階で一定の英語力を有する人材を確保するために、地域における教員免許の取得可能な大学等への働きかけをより一層行っていく必要がある。

(2) (1) の目標を達成するための取組 (施策の全体像と具体的な計画)



1 本市の課題に対する取組の方向性について

本市では、小・中・高等学校の英語教育の円滑な接続を図るため、令和2年度「札幌市英語教育改善プラン」を策定し、小・中・高等学校の児童生徒が主体的に英語でコミュニケーションを図る資質・能力を育成するよう、学習指導要領全面実施に向けた準備として、コロナ禍においても重点化を図りながら推進してきたところである。

これまでの英語教育実施調査における結果等の分析から、下記の4点を本市の課題とし、令和3年度も改善に向けた取組を継続していく。

(1) 本市の課題

【課題1】「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標の設定状況・・・目標①と関連

【課題2】授業における言語活動の充実・・・目標②③④⑤⑥との関連

【課題3】英語力を把握するためのパフォーマンステストの実施状況・・・目標③と関連

【課題4】小・中・高等学校の連携に関する状況

(2) 取組の方向性（本市の課題を踏まえ、重点的に取り組む内容）

○「札幌 CAN-DO スタンダード」を参考とした学習到達目標の設定について

- ・令和2年度、改善プラン会議の研究部会において作成・周知した「札幌 CAN-DO スタンダード」を活用し、各学校で CAN-DO リスト形式による学習到達目標の設定が進むよう働きかける。
- ・小学校においては、「英語専門教師研修」や「英語専科指導教員研修」にて、中学校においては、「札幌市教育研究推進事業」（以下「札幌教研」という。）の研究集会等にて、指導主事及び英語教育推進リーダーを含む改善プラン会議の研究部員から、学習到達目標の設定の必要性と効果及び「札幌 CAN-DO スタンダード」の活用等について普及・啓発を図り、学習到達目標の整備率の向上を図ることによって、目標に応じた指導と評価を行う。
- ・高等学校においては、10月実施予定の「札幌市立高等学校教科別研究協議会（以下「教科別研究協議会」という。）」等にて、学習到達目標の整備について各学校における取組を交流する。「札幌 CAN-DO スタンダード」を通して、校種間の接続について把握し、現行の CAN-DO リスト形式による学習到達目標の見直し及び設定、公開を推奨することによって、自校の目標に応じた指導と評価を行う。
- ・本市で設定している「札幌市教員育成指標【教員編】」における、学習指導の観点を常に意識するように促し、教科の専門性やねらいを明確にし、地域や学校の実態を的確に捉えた上で、学習到達目標の整備に努めるよう働き掛ける。

○授業における言語活動の充実を図るための研修等の取組

- ・授業における言語活動の充実を図るため、コロナ禍や働き方改革の観点から、動画配信やオンラインの活用など、実施方法等の工夫を講じて、学習指導要領の全面実施を踏まえた指導力の向上を目指した各種研修を実施する。
- ・全校種の英語指導を担当する教員を対象に、外部専門機関と連携した「英語教員授業力パワーアップ研修」をオンラインで実施し、英語を使用して授業を進めることを想定したより実践的な演習や、児童生徒の理解度に応じたクラスルーム・イングリッシュの効果的な使用等について学ぶことで、指導力及び英語力の向上を図る。
- ・教育委員会主催の研修の他、文部科学省、大学との連携等による研修の機会も提供する。
- ・「札幌 CAN-DO スタンダード」の活用ハンドブックにて示した「言語活動」の在り方や「札幌市教育課程編成の手引（外国語）」において示した課題探究的な学習展開例等について、研修等、様々な機会を通して、周知する。
- ・高等学校においては、教科別研究協議会等において、望ましい言語活動の在り方をテーマに協議することで、生徒の英語による言語活動時間の占める割合の向上を図る。
- ・令和3年度は、中学校・高等学校では、改善プラン会議の研究部会で望ましい言語活動のあ

り方、英語による言語活動時間の占める割合に関するモデル研究を実施し、研究成果を研究拠点校において授業公開・研修会等を実施する予定。

○英語力を把握するためのパフォーマンステストの実施

- ・小学校、中学校では、札幌市の研究集会・学習会等において、高等学校では、教科別研究協議会において、新学習指導要領に基づいた指導と評価の在り方をテーマに研究協議を行う。その中で、パフォーマンステストの実施状況等について交流することによって、各校は参考にしながら推進していく。
- ・令和2年度、「札幌CAN-DOスタンダード」の活用ハンドブックに併せて、参考資料として全校種のパフォーマンステスト事例集を各学校に配付した。
- ・令和3年度も改善プラン会議の研究部会において、パフォーマンステストの在り方を検討し、各種研修会において事例集を活用するなどして各学校における実施を推進し、児童生徒の英語力の向上を目指す。

○校種間連携を図る取組

- ・これまでの英語実施状況調査の分析から、本市では小中連携において一層の取組が求められている。令和3年度は、小・中・高等学校に研究拠点校を設置し、改善プラン会議の研究部員の協力の下、言語活動及びパフォーマンステスト等に係る実践に加え、学びの円滑な接続を目指した小中の校種間連携の取組の実践を行い、全市に発信することにより、外国語教育における校種間連携の充実に資する。
- ・現在、本市は「小中一貫した教育」を推進するにあたり、小中一貫した教育コーディネーターを各学校に派遣し、定期的実施するコーディネーターの交流会において互いの活動内容等を共有している。外国語教育に係る好事例についても共有していくよう、コーディネーターにも働きかけていく。

2 具体的な計画について

(1) 札幌市英語教育改善プラン会議・・・関連する目標 ①②③④⑤⑥

構成員：研究部員（英語推進リーダーを含む小・中・高等学校教員、研究拠点校の外国語指導教員）、外部有識者、札幌市教育委員会指導主事

目的：新学習指導要領で示された五つの領域別の目標を踏まえ、各学校が改めて児童生徒に求められる英語力の目標を設定し、地域学校間での共有を通して、学びの連続性を意識するとともに、研究拠点校の実践を共有することによって、各校の指導の工夫・改善に資する。

取組内容：・令和3年度当初、各学校の学習到達目標の作成等の状況を把握するため、市が実態調査を実施する。

- ・各種説明会、研修会等の行政説明の場面等において「札幌CAN-DOスタンダード」の活用と、地域学校間（パートナー校）での共有を啓発する。
- ・小・中・高等学校に研究拠点校を設置する。小・中学校については、自校の「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標に基づき、言語活動及びパフォーマンステスト等における工夫を図った公開授業、また、小中の校種間連携を図った取組を行い、高等学校については、指導改善に関する取組を継続する。それらの実践例や実践成果を全市に発信する。

実施方法：会議の持ち方、授業公開、研修会、実施成果の普及等について、新型コロナウイルス感染状況も鑑み、実施方法を変更するなどして、柔軟に対応する。

実施期間：2年目（継続）

評価・助言：有識者（大学教授）

(2) 公益財団法人日本英語検定協会の「英検 I B A (R L)」の実施・・・関連する目標 ⑥

対象者：中等教育学校前期課程を含む全ての中学校における第1～3学年までの全学年
 目的：生徒一人一人が身に付けた英語力を発揮する機会として活用する。個人結果の分析を通して自分の英語力の状況を把握し、英語の学習に新たな目標をもち、学校や家庭で更に学ぼうとする意欲を高めることを目的として実施する。また、各学校は生徒の英語力について把握し、日常の指導に活用する。

実施要領：「読むこと」「聞くこと」の2技能を測定する。

- ・生徒一人一人が個人成績表にて英検級の目安や分野別アドバイス等を受ける。
- ・学校は団体成績表にて、学年ごとの結果や平均スコア、分野別平均正答率等の情報を受け取る。
- ・問題の送付・集計・結果分析については、日本英語検定協会で行う。
- ・中学校においては、英検 I B A の実施による英語力の把握等を通して、課題の改善を図ることができるよう、教育委員会が本市の成果と課題について情報提供し、より一層充実した外国語教育を推進していく。

(3) 教員研修

■「札幌市教員育成指標」との関連

(求める教師像)

○教育者として、強い使命感・倫理観と子どもへの深い教育的愛情を、常にもち続けている教員
 ・教育の専門家として、実践的指導力や専門性の向上に主体的に取り組む教員

(教員の素養)

使命感・責任感・倫理観	教育者として、崇高な使命を深く自覚し、強い責任感や法令遵守の精神、高い倫理観をもっている。
情熱・教育的愛情	札幌を理解し、愛着をもつとともに、教職への誇りと情熱、子どもへの深い教育的愛情をもっている。
人間性・コミュニケーション	豊かな人間性や広い視野、人権尊重の意識をもち、コミュニケーションを図りながら、同僚性を高め、他者との信頼関係を構築している。
学び続けようとする意欲	常に自己研鑽に努め、向上心をもって主体的に学び続けている

(学習指導)

	【養成段階】	ステージ1 【基礎形成期】	ステージ2 【向上・充実期】	ステージ3 【深化・牽引期】
授業構築	教科の専門性や学習指導要領等を理解し、目標を明確にした授業づくりをしようとしている。	子どもの興味・関心を生かしながら、ねらいを明確にした、「分かる・できる・楽しい授業」を構築している。	学校の特色を生かし、子どもの実態や教科のねらいに応じた多様な授業を構築している。	学校の特色を生かし、子どもの実態や教科のねらいに応じた多様な授業を構築している。
指導技術	板書や発問等の基本的な指導技術を理解し、実践しようとしている。	効果的な板書や発問、ICT等の指導技術を、多くの実践を通して学び、身に付けている。	ねらいに応じた教材の開発や指導方法の効果的な活用の工夫をするなど、確かな指導技術を身に付けている。	豊富な経験から身に付けた確かな指導技術等を生かし授業実践をするとともに、同僚に適切な対応をしている。
授業評価・改善	授業改善の意義や授業を見直す手だてを理解し、実践しようとしている。	自分の実践を適切に見直し、その成果と課題を明確にした上で、次の実践に活かしている。	授業改善の意識を常にもち続け、より効果的な手だてを考え、次の実践に活かしている。	子どもの育ちの状況から授業を見つめ直し、自らの授業改善を図るとともに、同僚に適切な対応をしている。

■「札幌市教員育成指標」の活用方法

各研修前後に、研修参加者が指標の達成状況等を理解し自己評価することで自身の課題を明確にし、資質・能力の向上を図る

■実施予定研修

【全校種共通】

①札幌市教育センター専門研修・・・関連する目標 ②③④⑥

- 対象者：小・中・高・中等教育学校外国語・外国語活動担当教員 希望者
 目的：教科等に関する専門的な知識や技能の習得により、指導力の向上を図る。
 内容：全6講座
 <1> 小学校外国語活動 ～3・4年生～<授業公開・講義>
 <2> 小学校外国語科教育～5・6年生～<授業公開・講義>
 <3> 中学校英語科教育<授業公開・講義>
 <4> 小・中学校をつなぐ外国語教育と評価の在り方
 <5> ALTを活用した小学校外国語教育 ～ALT活用のポイント・指導例～
 <6> CAN-DOリストの作成と活用

予定者数：約120人
 実施期間：継続実施（平成23年度～）
 評価：受講者によるアンケート

②札幌市小・中・高等学校等英語教員授業力パワーアップ研修・・・関連する目標②④⑤

- 対象者：小・中・高・中等教育学校外国語・外国語活動担当教員 希望者
 目的：英語を使用して授業を進めることを想定したより実践的な演習や、児童生徒の理解度に応じたクラスルーム・イングリッシュの効果的な使用、英語による言語活動を増やすための効果的な工夫をテーマに研修し、授業における言語活動の充実と技能統合の指導の実現を図るとともに、教員の英語力の向上を図る。

実施方法：外部専門機関によるオンライン研修

予定者数：オンラインによる実施であるため、参加者数に上限枠を設けない。

- 内容：全6講座 ※各講座名は仮称
 <指導力向上を図る研修>
 ○小学校教員対象
 <1> 児童が英語を話したくなる教師のClassroom Englishトレーニング
 <2> 教科書を効果的に活用した言語活動
 ○中・高等学校教員対象
 <3> 生徒の発信力を育成する指導～コミュニケーション力を高める教師の話し方
 <4> 教科書を効果的に活用した言語活動
 <英語力向上を図る研修>
 ○全校種教員対象
 <5> 基礎編
 <6> 応用編

実施期間：新規事業
 評価：受講者のアンケート

③札幌市外国語指導助手指導力等向上研修・・・関連する目標 ④⑤

- 対象者：本市勤務JET ALT、小・中・高・中等教育学校外国語・外国語活動担当教員
 目的：一層効果的な語学指導ができるよう、必要な知識・指導技術等を習得するとともに、外国語教育に係る諸問題について研究協議を行い、外国語教育の充実を図る。また、ALTと英語担当教員が積極的に英語で意見交流をすることで、より効果的なチーム・ティーチングの促進を図る。

内容：外部専門機関（ブリティッシュ・カウンシル）による集合研修
 予定者数：約100人（JET ALT 含む）

実施期間：継続実施（平成30年度～）

評 価：受講者のアンケート

【小学校】

④小学校英語専科指導教員研修・・・関連する目標 ①②③④

対 象 者：小学校英語専科指導教員

目 的：小学校英語専科指導の要件を満たした小学校英語専科指導教員の指導力の向上を図ることができるよう、小学校英語専科指導に関する専門的な知識や必要とされる技能を身に付けることを目的とする。

内 容：・専科指導の実践事例発表
・グループ協議等

予定者数：55人（悉皆）

実施回数：年2回

評 価：受講者のアンケート

⑤英語専門教師研修・・・関連する目標 ①

対 象 者：小学校英語専門教師

目 的：各学校において外国語活動・外国語の授業の一層の充実に向けた取組を推進する役割として位置付けられた英語専門教師が、研修を通して得た情報等を活かし、英語教育に係る校内体制づくりを推進することを目的とする。

内 容：・令和3年度「札幌市英語教育改善プラン」の周知
・校種間連携について
・グループ協議等による情報交流

予定者数：全小学校から各1名（悉皆）

実施回数：年2回

評 価：受講者のアンケート

【小学校・中学校】

⑥札幌市教育研究推進事業（小学校外国語・外国語活動部会、中学校外国語部会）

・・・関連する目標 ①②③④⑥

対 象 者：市立小・中・高・中等教育学校外国語・外国語活動担当教員

目 的：「札幌市教育振興基本計画」及び「札幌市学校教育の重点」等を踏まえ、自主的・主体的な研究活動及び研修を通じ、それぞれの資質の向上に努め、各学校の外国語・外国語活動教育の振興を図る。

内 容：小学校・中学校・それぞれの部会による研究集会（年2回）

- ・講演等
- ・研究授業公開
- ・研究討議
- ・指導主事による伝達及び指導助言
- ・小・中合同学習交流会（年2回）
- ・研究授業公開
- ・研究討議
- ・担当校長または指導主事による伝達及び指導助言

実施回数：小学校・中学校・それぞれの部会による全市研究部会（年4回）

各区研究部会（年9回）

予定者数：約600人

実施期間：継続実施（昭和25年度～）

評 価：各区研究部会からの報告

⑦幼小中合同教育課程研究協議会（外国語・外国語活動・外国語部会）・・・関連する目標 ①～⑥

対 象 者：管理職及び教諭

目 的：各学校における教育課程の編成、実施に伴う諸課題について研究協議等を行い、教育課程の編成、実施の重点について理解を深めるとともに、目標や課題を共有することで札幌市の学校教育の改善・充実に図る。

内 容：・研究発表 ・研究協議 ・指導主事による情報提供
・外国語担当学校長による助言

予定者数：約50人

実施期間：継続実施（平成30年度～）

評 価：受講者のアンケート

【高等学校】

⑧札幌市立高等学校教科別研究協議会・・・関連する目標 ①②③④⑥

対 象 者：市立高等学校・中等教育学校英語教員

目 的：・札幌市立高校の生徒の学ぶ意欲を引き出し、主体的に学ぶ喜びを実感させる魅力ある授業を創造するため、教員の指導力の向上を図る。

・全員参加のもと、参加意欲を引き出し、教育の動向にも配慮した意味のある研究協議となるよう内容を工夫するとともに、各校の交流を図り、教科指導について相互に学ぶ機会とする。

・望ましい言語活動の在り方を協議することで、生徒の英語による言語活動の充実に図る。

内 容：・実行委員会形式による集合研修
・研究授業公開 ・研究討議 ・指導主事による伝達及び指導助言
・開催期間：3日間（全体会1日、実行委員会2日）

予定者数：約80名

実施期間：継続実施（平成28年度～）

評 価：実行委員会による参加者アンケート分析

(4) その他の教員研修

【小学校】

○令和3年度北海道教育大学小学校英語オンライン講座（教員養成機関等との連携による小学校外国語の専門人材育成・確保事業）（予定）

対 象 者：小学校で勤務している現職教員 希望者

目 的：小学校英語に関わるオンライン講座を開発・実施し、教員等に対して、場所と時間に拘束されない研修の機会を提供することで、質の高い授業の実施を実現する指導体制の構築に資することを目的とする。

実施方法：オンライン研修（同期型・非同期型）

予定者数：約40人（令和2年度：北海道全体で74名受講、うち札幌市は22名）

内 容：・小学校英語基礎論：基礎的な理論を学び、実践への応用方法について考える。
・小学校英語授業研究：実際の小学校の授業を見て、指導力・授業力を高める方法について考える。
・オンラインセッション等：受講した講座を振り返り、担当教師・授業者との交流を行う。

そ の 他：講習科目時間の5分の4以上出席し、成績審査に合格した者には「北海道教育大学小学校英語オンライン講座修了証」を発行する。

【小学校／中学校・高等学校】

○文部科学省「オンライン・オフライン研修実証事業（小学校教員向けプログラム）参加

○文部科学省「オンライン・オフライン研修実証事業（中・高等学校教員向けプログラム）参加

